

和洋女子大 川村 一男
○田口 秀子

1. 衣類の汚染の問題に関しては、多くの業績が先人により挙げられている。しかし、これ等は被服整理の観点からなされているものが多いので、演者は、もう少し局所的に衣類の汚染を取挙げて考えてみたいと志した。

斯様な考え方から、普通用いられている衣類材料の6種について着用実験を行ない、材料別、及び着用部位別の汚染度について追求してみた。

2. 3. 供試せる衣材料は、テトロン、絹、ナイロン、木綿、アセテート、及び羊毛である。実験に際しては、上記材料を各々縦7cm、横7cmの大きさに切断し、これを迅速水分計（島津製作所）をもって、一定条件のもとで秤量した後、下着の肩、腋、背、腰、及び腹等の12カ所に取りつけ、12時間着用の後、これを再び同条件下で秤量し、その差をもって汚染度となした。ただしこの場合、摩擦の度合についての測定は不可能であった。その結果、総括的にみて汚染されやすい個所として、①背部、胴部、腰部の一連と②下腿部、膝部の一連を主にあげることができる。つぎに衣料材料別にみると、最も汚染度のない個所は、木綿では腹背部、絹では腰部、テトロンでは大腿後面、ナイロンでは膝部によって汚染度最大を示している。ついで、これらの汚染度を総括的に観察するとテトロン>絹>ナイロン>木綿>アセテート>羊毛の順で汚染度は少なくなり、疎水性の繊維の方が汚れ易い傾向を示した。